

様式第 3 号 (第 8 条関係)

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
副園長	<p>1 開会の言葉</p> <p>これより、令和 4 年度第 1 回幼稚園評議員会を開会いたします。</p> <p>なお、本会議は、加須市審議会等の会議の公開及び会議録の公表に関する要綱に基づきまして、会議を公開することとなっておりますこと、また、本日の会議の会議録につきまして、後日、花崎北幼稚園のホームページで公表いたしますことをあらかじめご報告申し上げます。</p>
園長	<p>2 委嘱状交付</p> <p>3 あいさつ</p> <p>市立幼稚園における幼稚園評議員会の設置と評議員の役割につきましては、「加須市立幼稚園管理規則」の第 2 1 条の 1 に「園長は、幼稚園評議員を置くことができる」と、同条の 2 に「園長の求めに応じて、幼稚園の教育目標や計画、教育活動の実施、幼稚園と地域との連携の進め方など園長が行う幼稚園運営に関して意見を述べ、助言を行うものとする」と示されております。これらに基づき、皆様に本園の評議員をお願い、ご協力をいただくことといたしました。</p> <p>本日は、第 1 回でございますので、幼稚園教育の目的やその重要性について、そして、本園の現状、今年度の「経営の方針」と「重点とする取組」等についてご説明申し上げますので、ご意見を賜りたくお願い申し上げます。また、説明後は、3 歳児うさぎ組と 5 歳児ほし組の保育活動の様子をご覧くださいますのでよろしく願いいたします。</p>
副園長・主任教諭・参会者 園長	<p>4 参会者自己紹介</p> <p>5 説明</p> <p>(1) 幼稚園教育の重要性について発言</p> <p>「幼稚園は楽しく遊ぶところ」こんな言葉を耳にすることがありますが、これは、少し誤解を含んだ表現です。幼児期の子供は、「遊び」を通して「言葉や数の知識・技能」「思考力や判断力、表現力」「学びに向かう力」や「道徳性」等、様々な資質・能力を身に付けています。ですから、「幼稚園は、『遊び』を通して無意識に学習するところ」と言えると思います。「遊び」を通じた学習は、幼児期にしかできない、幼児期に行わなければならない極めて重要な活動なのです。そして、無意識の学習であるだけに、大人（教師）による意図的な働きかけや環境づくりが大切になってくるのです。</p>

幼児期に積み重ねられたこうした「遊び」の経験は、小学校の授業で学習課題が示された時の「自力で解いてみたい」という課題意識や主体性に、そして、「工夫して取り組んだら解くことができた」という達成感に、さらには、「もっと高度な課題に挑戦してみたい」という発展的な意欲につながっていくと考えます。

私は、幼稚園での「遊びを通した学習」は、小学校以降の「学ぶ力」の基礎をつくるものと捉えています。

話が変わりますが、ある時、幼稚園と小学校との連絡協議会で、1年生を担当する教師から「45分間座って学習ができるように練習しておいてほしい」という話がありました。私は、これは、少し違う気がします。夢中になって遊ぶことを経験した子供は、同じように授業に夢中になって取り組めると考えるからです。

「幼稚園は、時ならぬときに花を咲かせるところではありません。温室の促成栽培をやれば、花を咲かせることは可能ですが、そうして育てた花は温室から出すとすぐにしおれてしまいます。根をはり、芽ばえをつちかう教育こそ本物です。」

これは、幼児教育の基礎を築いた倉橋惣三氏の言葉です。大人は、花を楽しむことを急ぐあまり、子供たちの活躍や成功に価値を求めがちですが、失敗することや試行錯誤することも含め、全てが根を張るための大切な学習なのです。

私たちは、子供たちのために、「学びの芽生えを培う教育」「学ぶ力の基礎を育てる学習」をじっくりと進めていきたいと考えています。

(2) 本園の現状について発言

本園の園児数及び学級数は、年少（3歳児）35名、2学級。年中（4歳児）10名、1学級。年長（5歳児）15名、1学級です。3歳児は、水深地区が本園の通園区域に加わっていますので、園児数が多く2学級となっています。これは、他の市立幼稚園にない本園の特徴でもあります。花崎北地区の全体の就園率は、31.9%です。

職員は、専任の園長、小学校の教頭を兼任する副園長、主任教諭、そして、各学級の担任の教諭4名、保育を補助する幼稚園業務補助員が5名の計12名です。

(3) 令和3年度「学校評価」における「自己評価結果」及び「改善の方針」について発言

「経営の方針」に基づいた項目について、その成果を評価し、課題や改善点を明らかにするために、本園では、「学校評価」を実施しています。お示ししましたのは、保護者の方のアンケートをもとに、独自の

基準で各項目を評価した結果です。

例えば、「3 幼稚園は、子供たちの成長が実感できる指導・援助を行っている」は、「保護者満足度」100ポイント、「達成度」95ポイントで評価「A」となっています。

「満足度」とは、4段階評価で、「4 十分に満足している」「3 満足している」とした保護者の割合で、「達成度」は、全ての回答が「十分に満足している」となった場合を100ポイントとした時の達成状況を示したものです。評価Aは、「課題が少なく、目標を十分に達成している状況」です。「幼稚園運営」に関わる8項目については、全てAで概ね目標を達成できたと評価しています。しかし、「幼稚園教育の家庭への波及」では、6項目中、5項目が、評価BあるいはCで、家庭との連携・協働による教育の展開が課題と言えます。

特に、「進んで挨拶をしている」は、保護者満足度、達成度ともに69ポイントで、評価Cとなっています。

(4)「経営方針」及び「重点とする取組」等について発言

令和3年度の「学校評価結果」及び「改善の方針」を基に、令和4年度の「経営の方針・3つの重点」を定めました。

1つ目は、「幼児の変容と成長を実感できる教育の推進」です。私たちは、保護者の方に、「できなかったことができるようになった」「子供の成長が見える」と実感していただくことを目指しています。そこで、発達段階に応じた教育環境を整え、多様な体験や遊びを工夫して、子供たち一人一人の変容と成長を確実に促すことに努めていきます。

2つ目は、「個に応じた指導・援助と小学校への円滑な接続」です。幼児一人一人の実態を的確にとらえ、個に応じたきめ細かな指導・援助により、小学校と連携しながら、「学ぶ力」の基礎を培っていきます。

3つ目は、先ほど課題として示しました「家庭・地域との協働による教育の強化」です。家庭や地域との信頼をもとに、緊密な連携を図ることにより、同じ目標に向かって教育に取り組む態勢をつくりま

す。

この3つに加えて、家庭との協働態勢をつくるための前提となる条件の整備として、「幼稚園教育の重要性の保護者への周知」を掲げています。幼稚園における活動が、小学校以降の「学ぶ力」の基礎をつくる重要な学習であることを保護者の方に積極的に発信していきます。

次に、これらの重点とする項目を実現するために、職員の取るべき基本的な姿勢についてです。

1つ目は、『先憂後楽（人よりも先に憂い、人よりも後に楽しむ）』の姿勢を貫く」です。些細な問題を見逃さず、保護者の方よりも先に心配し、問題の解決に取り組む。そして、問題が解決して喜ぶ保護者

	<p>の方の姿を見て喜ぶ。そんな姿勢で保育を進めていきます。</p> <p>2つ目は、「保護者・地域の方との協働の態勢を強化する」です。</p> <p>3つ目は、「つねに、保育活動の『目的』を明確に示す。『活動』自体を『成果』にしない」です。楽しく活動させることは、保育の方策であり目的ではありません。活動を通して、子供たちが確かに成長したかを評価し、成果として見ていきます。</p> <p>4つ目は、「最小の教育行為により、最大の教育効果を得るための工夫をする」です。教育の効果を上げるために、活動のスリム化を図っていきます。</p> <p>そして、5つ目は、「教育的な機能と美しさを備えた環境を維持する」です。</p> <p>以上のような「経営の方針」に基づきまして、令和4年度の教育を展開しています。</p>
主任教諭	<p>(5) 1学期の保育活動について発言</p> <p>4月11日のはじまりの式、入園式を終え、円滑に新年度がスタートしました。はじめは、不安な表情を見せていた3歳児も、新しい環境に慣れ、現在は、友達と関わりながら元気いっぱい活動してします。日々感染拡大防止のための対策を講じながらの保育ですが、多様な体験ができるように活動の方法を工夫しています。</p> <p>まず、保護者に関わる行事等についてですが、これまでに、保育参観を2回と教育相談（6月20日～24日）を実施しました。</p> <p>幼稚園応援団（地域ボランティア）による活動としては、体験活動を通して、子供たちが学ぶ機会をもつことができるように、「幼児体操」や英語を使いながら遊ぶ「キラキラベリー」等を実施しました。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルスの感染防止のために実施できなかったプールを使った活動を3年ぶりに行いました。3学年とも初めての活動のため、まずは水に慣れることから始め、次第に学年ごとの発達段階に応じた活動を設定していきました。また、年中・年長児は、小学校と連携し、小学校のプール施設を使った活動も行います。</p> <p>2学期以降は、運動会や遠足等の大きな行事も計画しています。多様な活動を通して、子供たちの豊かな経験が学びにつながるよう援助していきたいと考えています。</p>
7 保育視察 8 質疑応答 意見交換 佐藤 評議員	<p>保育参観に来られない保護者・幼児への対応について質問</p> <p>保護者が参加して子供と一緒に活動していましたが、保護者が都合で来られない場合は、どのように対応しているのですか。</p>

主任教諭	保護者は、子供の登園に付き添って来るので、保育の開始とともにそのまま参観を始めます。また、内容について事前に知らせていますので、参観できないケースは、ほとんどありません。仮に保護者が急に参観できなくなった場合は、職員が保護者の代わりに務めます。
佐藤 評議員	教室の掲示等の環境について発言 どの教室も、掲示物が工夫されていて、アイディアに溢れています。一つ一つの作品が大切にされていてとても感心しました。
伏見 評議員	降園時刻について質問 園児は、何時に降園するのですか。
主任教諭	3歳児は、午後1時30分。4歳児は、午後2時30分。5歳児は、午後3時になります。
伏見 評議員	以前に比べると随分遅くなりました。子育てをしやすい環境が整っているように思います。また、補助員さんがいることできめ細かな援助がなされています。 本日のように保護者が参加し、子供と一緒に活動できる参観は価値があると感じました。
松井 評議員	保育参観実施時の「ひととき託児」について発言 「ひととき託児」がある時は、保護者が、保育参観に集中できてよかったと思います。新型コロナウイルスの感染防止のため「ひととき託児」が行われていないのが残念です。
副園長	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、1か所に幼児を集めて託児をすることが難しくなっております。早い収束を願っています。
副園長	9 閉会の言葉 多くのご意見をいただきありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度第1回幼稚園評議員会を閉会いたします。
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。</p> <p>令和4年7月5日</p> <p style="text-align: center;">署名 <u> 園長 松永 修 </u></p>	